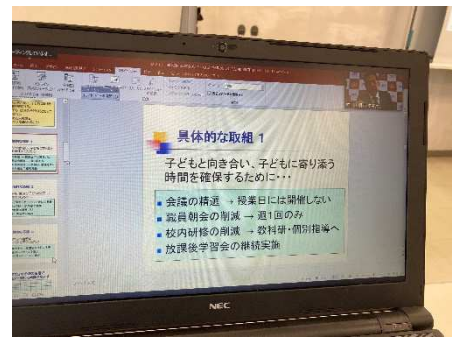


国頭地区校長研修会報告書

研修名	「国頭地区校長研修会」国頭地区校長研究大会と共催
日時	2021年2月17日(水) 13:30～16:45
研修の目的	校長の職務並びに教育活動について研究を深め、資質の向上を図ると共に本地区の教育の現状を直視し、充実した学校経営を図る。
テーマ	リーダーに求められる課題解決能力
講師名	堀田浩一郎（熊本県山鹿市教育委員会 教育長）
会場・場所	Zoomによるオンライン研修
研修内容	<p>研究発表の部 13:30～14:50 第3分科会「知性・創造部」・第5分科会「研究・研修」・第2分科会「確かな学力」 3部会の発表</p> <p>基調講演の部 15:00～16:45 熊本県山鹿市教育長 堀田浩一郎氏 「学校改革と校長のリーダーシップ」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校を変えるとは 2 私の教育信条（教師の姿勢） 3 信頼される管理職とは 4 山鹿中学校での教育実践・・・ <ul style="list-style-type: none"> ①「不登校生徒を出さない」 ②「学力保障」 ③「会議の削減」 <p>NHK テレビ放送のDVD 「先生が会議を減らしたら いじめが減った」 5 堀田校長・教育長のリーダーシップ 等</p>
成果／活用策	<p>○教育課題の解決に向けて、本気で行っている毎日の実践、子どもと向き合う時間の確保等、改善ではなく本気で行う改革が必要。ここまで強い意志があれば、学校は変わると感じた。また、「保護者と勝負するのではない、子どもと勝負！子どもとの関係作りが大切だ」というお話はぜひ職員と共有したい。</p> <p>○校長の理想とする学校経営方針について「まずはやってみましょう」と意気込みのある先生方の育成に努めること。また、そのための校長の指導力が重要であるということ。</p> <p>○本校の課題解決を更に明確にし、校長のリーダーシップを発揮して学校改革に臨みたい。特に教育理念・教育信条がすべての教育活動とつながり、課題解決の土台となるよう、教職員をはじめ、生徒、保護者、地域の方々に理解を求め、教育実践を行う</p> <p>○校長の教育信条を職員にしっかり知らせること。○職員との信頼構築には、粘り強い話し合いが必要であること。○学校経営が一目で分かる構造表を作成したい。校長の評価については、実践したい。</p> <p>○会議や行事を精選し、「教師が子どもと向き合う時間を確保すること」についてですが、すでに職員会議を2か月に1回行うなど実践していますが、もっと子どもと向き合う時間を確保するために工夫・改善することがないか考えていきたい。</p> <p>○「校長がかわれば学校が変わる」。校長が実態を見据え変容していくことが教職員の姿勢を変え、成長させていく。言うべきこと、関わるべきことをしっかりと見定め、積極的に自信を持ちこれからも教職員と関わっていきたい。そして、教職員が変容、成長することで児童が変わり、学校が変わっていく。明日からも頑張っていこうという気持ちが持てた。</p> <p>○教職員との信頼関係の構築ビジョンを更に明確にした学校経営に取り組む。（指導が必要な教職員へは、校長自ら指導役となり資質向上に努める。○強い信念と行動力を持って、学校経営にあたる。○学校が子ども達・保護者・地域に信頼されるために何を成すべきか？学校の実態を明確に捉えて率先垂範で学校経営にあたる。○校務のスリム化を図り、子ども達と向かい合う「親同様の教師」の業務を支援する。</p>



感想／要望	<p>○課題を解決するために、徹底して教師に理解してもらい、状況を変える（例：時間の確保をするためには）など、考え方を学ぶことができました。堀田教育長の実践からヒントを得て、経営に生かせると思いました。</p> <p>○とにかく校長としての本気度が試されていると感じました。いかに徹底してやるかということに尽きると思います。そのためには管理職としての心のこもった厳しさというのが必要だと感じました。信念を貫くためには恐れない事、媚びない事、結果を出すこと等が大事だと思います。講話の中で、習熟度別少人数学級編成の取組の内容で、生徒の進路を心配する県の指導主事とのやり取りのエピソード、インフルエンザの子供を見舞いに行った職員とのやり取りのエピソード等、たくさんの興味深いお話をきくことができました。お話に出てきた「行事の手引き」「指導の手引き」について、具体的な内容が知りたいです。できれば資料等提供してもらえるとありがたいのですが…</p> <p>○校長としての思いをどのように職員に伝えるのか、どのようにベクトルを揃えていくのか、職員を信頼し、信念と愛情を持って学校経営にあたることの大切さを改めて痛感しました。校長の「覚悟」と「ゆるぎのない信念」持ち、頑張っていきたいと考えました。</p> <p>○学校の課題を洗い出し、解決のための手立てを「子供たちの育ち」に焦点を当てて、具体的な行動につなげたこと、それを全職員体制で取り組んだことが大きな成果につながったと感じました。「朝からしっかりと子供と接する。」という当たり前のことが、信頼関係を築くポイントになること、子供とじっくり向き合うことで心の成長を促し学力を向上させるそれが保護者の信頼を勝ち取ることに繋がること、など再度全職員と確認したい。「子供を成長させて怒る親はいない」同感です！</p> <p>○頼られる学校を創るには、校長の思い・熱量・愛情が重要で、それがリーダーシップとしてなって、教職員の主体性につながり、生徒にとって楽しい学校になる。堀田教育長に負けない思い・熱量・愛情を持って、職員・生徒と関わり、学校改革に臨みたい。</p> <p>○子どもと向き合い、子どもに寄り添うことでしか、課題は本当の意味で解決しない。課題を一つ一つ解決することで学校は信頼される。そのためには、教師が子どもと触れ合うための時間を確保することが大切。それを出来るのは校長である。堀田先生の話聞いて、校長としての覚悟を強く感じた。</p> <p>○「リーダーは孤独である」という言葉はこれからもしっかり自覚していきたい。孤独に耐えきれなければ粘り強い学校経営はできない。孤独に耐え黙々と頑張っている姿がなければ助ける人は現れない。自分に過信せず、誰が協力してくれる人か、また、誰がリーダーとなりうる人かを見据え切れなければ、学校が変革し、子どもが幸せに暮らせるようになったとき、君たちの頑張りがあったからこそだと職員を称賛してあげられない。そんな思いを新たにできた。</p> <p>○学校は常に「信頼」があれば、どんな課題も解決に導くことができる。○教師は「子ども」と勝負する。子どもを変えれば大人も変わる。日々の教育活動での寄り添い・関わり合う時間を大切にすること。</p>
-------	---



アンケートの結果

目標参加者数	59人	参加者	59人	参加率 100%	参加率＝目標参加数÷参加数
アンケート回収数	48件	回収率	81%	回収率＝回収数÷参加者数 (%)	

アンケート項目	評価 4		評価 3	
1. 研修の時間について	適切であった	39人(90%)	まあまあ適切であった	4人(9.3%)
2. 興味を引く研修内容か	非常に良かった	39人(90%)	良かった	4人(9.3%)
3. 今後の教育活動に活かそうか	非常に活かそう	35人(81.4%)	まあまあ活かそう	8人(18.6%)

